

令和4年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和4年度においては、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の2年目として、第4期中期経営計画に基づき、県、甲賀市と連携を図り、管理運営目標の達成に向けて施設の適切な運営管理に努めた。なお、令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の流行も年度後半には収束傾向が見られ、展覧会や各種イベントの開催、陶芸講座や子どもやきもの交流事業等の実施を通じて、入園者は概ねコロナ禍前に回復したと考えられる。

また、令和4年9月に信楽窯業技術試験場が隣接地に移転したことから、定期的に合同検討会を持つなど、より一層連携を深め、試験場の業績を取り上げた移転記念展の開催や、試験場の最新3D技術を活用した干支のギャラリー展示を行うとともに、技術協力を受けて、収蔵品や展示作品を3D・高精細VR映像で紹介する、バーチャルミュージアムの充実を図ったところである。引き続き連携協力をしながら、陶芸の森の魅力ある空間づくりや陶芸文化の発信、陶器産業の振興支援に取り組んでいくこととする。

そうした中で、令和4年度の入園者数は、施設修繕工事に伴う1月間の臨時休園があったものの、目標値の35万人に迫る34万6千人余りとなった。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、来園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

(1) 陶芸作品の野外展示

陶芸の森の名に相応しく、滞在した陶芸家の創作作品を野外展示し、オープン・エア・ミュージアムとして、自然の中で広く芸術作品を鑑賞できる機会を提供した。

また、魅力ある展示エリアの再構築を計画的に進めるため、現在設置されている作品約200点の破損状況の点検や分類調査、洗浄を実施し、経年劣化による倒壊等の危険度の高いものについては撤去することとした。

(2) 窯の広場

穴窯を始め薪窯8基の運用により、つくり手である陶芸家のニーズに応え、活動意欲の向上に繋げるとともに、来園者には活きた薪窯を見学いただき、園内散策のポイントとした。

(3) 花咲く公園

「火鉢ロード」と命名した陶芸館に続く歩道沿いに、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を配置し、来園者にレトロな雰囲気味わっていただくとともに、ゴルフ緑化協力金活用した（公財）滋賀県緑化推進会の支援により、新たに桜木を植樹いただくなど、様々な花木や草花を適切に管理し、四季折々の景観向上に努めた。

(4) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、園内園芸作業など、ボランティアによる活動支援を受けた。

・令和4年度登録ボランティア数 26人 ・延べ活動人数 3回／7人

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを開催した。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

ア. 実技講座シリーズ

①オリジナルのキムチ壺づくり（中級）

特別展「静中動」の関連講座として、出展作家を講師に迎え、韓国を代表する保存容器「オンギ（甕器）」を伝統技法で制作し、その報告動画を配信した。

＜開催日＞ 令和4年10月9日（日） ＜参加者＞ 16人

②ミニ窯をつくる（中級）

手びねりでぐい呑み数個を焼くことができるミニ窯を制作し、焼成体験とともに窯の仕組みについて理解を深めた。

＜開催日＞ 令和5年3月12日（土） ＜参加者＞ 12人

③ラク焼講座「ラク焼の茶碗をつくる」（中級）

赤ラクや黒ラクなどの茶碗を制作し、釉薬をかけて焼成する技術習得を促した。

＜開催日＞ 令和4年5月22日（日） ＜参加者＞ 16人

＜開催日＞ 令和5年3月19日（日） ＜参加者＞ 16人

④練り込み技法でうつわをつくる（中級）

色土を練り合わせて模様を作り出す練り込み技法により、皿や鉢を制作した。

＜開催日＞ 令和4年6月26日（日） ＜参加者＞ 16人

⑤七輪で粘土をやいてみよう！（初級）

箸置きやぐい呑みなどを作陶し、七輪で焼成した。

＜開催日＞ 令和4年6月12日（日） ＜参加者＞ 19人

イ. 穴窯体験講座

信楽町内在住の陶芸家指導の下に作品を作り、穴窯で焼成をする体験を通じて、穴窯の知識と技術の普及を図った。

- ・うつわ（初級） ＜開催日＞ 令和4年11月13日（日） ＜参加者＞ 8人
- ・干支（初級） ＜開催日＞ 令和4年11月27日（日） ＜参加者＞ 14人
- ・水指茶碗（中級） ＜開催日＞ 令和4年10月30日（日） ＜参加者＞ 9人
- ・大壺（上級） ＜開催日＞ 令和4年10月15日（土）・16日（日） ＜参加者＞ 5人

ウ. 穴窯焼成講座

穴窯体験講座経験者を対象として、30kgの粘土を用いて自由に作陶し、穴窯焼成技術の習得を促した。

- ・焼成体験 ＜開催日＞ 令和5年3月16日（木）～19日（日） ＜参加者＞ 14人
- ・窯出し ＜開催日＞ 令和5年3月26日（日） ＜参加者＞ 14人

エ. 登り窯講座

信楽町内在住の陶芸家指導の下に作品を作り、登り窯（火袋、一の間）で焼成する体験を通じて、登り窯の知識と技術の普及を図った。

- ・うつわ（初級） ＜開催日＞ 令和4年8月28日（日） ＜参加者＞ 13人
- ・壺／蹲（中級） ＜開催日＞ 令和4年9月25日（日） ＜参加者＞ 8人
- ・大壺（上級） ＜開催日＞ 令和4年9月10日（土）・11日（日） ＜参加者＞ 14人

オ. 登り窯グループ参加

- ・焼成体験 ＜開催日＞ 令和4年10月19日（水）～23日（日） ＜参加者＞ 4組26人

カ. トレインキルン焼成講座

短時間での焼成が可能であり、アメリカではポピュラーな窯であるトレインキルンを使い、今までとは異なる焼き締め作品の焼成技術の習得を促した。

・焼成体験 <開催日> 令和4年11月26日(土)・27日(日) <参加者> 14人

キ. 「京都芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

※新型コロナウイルス感染症予防のためスクーリング自体が中止

(2) イベントの開催・誘致

ア. 第16回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

全国からものづくりに励む陶芸作家を中心に募り、展示即売を行うイベントを誘致し、「市」の賑わいと作家のこだわりのものづくりに触れる機会を提供した。

<開催日> 令和4年5月2日(月)～5日(木祝)

<主催> 信楽作家市実行委員会

<参加者> 来園者：39,799人(前年度 22,717人)

陶芸家等出展：116件、飲食関係出店：13件

イ. 第27回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

「作品と作家に出会う」をテーマに、県内の陶芸作家や工芸家が制作した作品を自ら販売する、「作り手と使い手の出会いの場」を提供した。

<開催日> 令和4年11月4日(金)～6日(日) ※台風接近のため9月から延期

<参加者> 来園者：17,457人(前年度 17,939人、対前年度比 97.3%)

陶芸家等出展：93件、飲食関係出店：7件

ウ. わくわくウォーキング in 陶芸の森の開催

<開催日> 令和4年12月4日(日) <参加者> 39人

エ. 信楽陶芸の森フォトコンテストの実施

信楽焼等の魅力を発信することによって、信楽や陶芸の森のファン層形成に努めるため、自然豊かな信楽を素材とした、「インスタ映え」する写真を募集した。

<募集期間> 令和4年4月1日～令和5年1月31日 <投稿数> 161枚

<受賞作品> 金銀銅賞各1点／ホームページ発表／陶芸館パネル展示

(3) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告等の有料媒体を始め、ウェブを中心とした無料媒体への情報提供や、パブリシティ、ホームページの充実を通じて積極的な情報発信を行った。

○主な掲載・放送実績

- ・TVラジオ 9件 『おうみ発 630』(NHK)、『かいつぶりニュース』(BBC) 他
- ・新聞 37件 『京都新聞』、『中日新聞』、『朝日新聞』、『読売新聞』 他
- ・雑誌 37件 『関西日帰りさんぽ旅』(朝日新聞)、『韓国／月間陶芸』 他
- ・Web サイト 19件 『タビガタリ』(JR 東海)、『M KYOTO／湯呑茶碗展』(リーフ)

○バーチャルミュージアムの充実

収蔵品や展示作品の3D・高精細VR映像紹介サイト「陶芸館3Dデジタルアーカイブ」に、収蔵品3点の3D映像を追加更新するとともに、展示室を訪れている様な体験ができるパノラマVRツアーを追加し、信楽窯業技術試験場の技術協力を得て、特別展「静中動」と陶芸館ギャラリー「アニマルトイ」展の360°パノラマ撮影画像を紹介して、展示を見逃した方や再度観覧したい方への情報発信に努めた。

(4) 信楽産業展示館多目的ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい、陶芸に関する交流の場とするため、講演会や講座の開催など、各種事業を通じて多目的ホールの活用を図った。

(5) 地域拠点活用事業

陶芸の森地域連携拠点となる、まちなかギャラリーF U J I K I (旧藤喜陶苑)の運営を「F U J I K I 運営委員会」に委託し、地域に根差した施設運営・活用に努めた。

- ・ 展覧会開催 2 件 ・ 情報発信 2 件
- ・ ワークショップ 3 件 ・ その他活用 6 件

(6) 適切な施設管理

地域の産業振興や文化・観光の拠点として、また、来園者にとってくつろぎの場となるよう、公園内の適時樹木剪定や草刈り、落葉清掃、びわ湖材活用丸太ベンチの新規設置など、適切な施設の維持管理に努めた。なお、台風接近時等には災害警戒と来園者の安全性を考慮し、臨時休園措置をとった。

- ・ 台風接近休園 令和 4 年 9 月 19 日 ・ 修繕工事休園 令和 5 年 1 月 5 日～2 月 2 日

3. 陶芸の森やきものの振興基金の周知活動

陶芸の森がより一層充実した事業展開が図れるよう、「陶芸の森やきものの振興基金」への寄付について、各種事業実施時やホームページなどを通じて周知した。併せて、招待券の配布や内覧会への招待など、税控除制度以外の独自の特典を設けた「陶芸の森サポーター制度」を広くピーアールし、企業、団体、個人からの幅広い支援に繋げた。

第 2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

(1) 信楽窯業技術試験場移転記念展

「ジャパン・スタイルー信楽・クラフトデザインのあゆみ」

戦後、国際競争力の強化を目的に、デザイン振興施策が相次いで打ち出されていくなか、信楽を始め国内の陶産地では、日本独特の美意識を活かしたモノづくりが探求された。本展では、クラフトデザイン運動の指導者・日根野作三を軸に、熱気に満ちた当時の信楽を振り返りつつ、新時代を予感させる現代の「うつわ」を紹介した。

＜開催期間＞ 令和 4 年 4 月 1 日(金)～6 月 9 日(木) (前年度から継続：60日間)

＜観 覧 者＞ 4,181人 (1 日平均69.7人)

【関連事業】

- ・ ギャラリー・トーク

＜開催日＞ 令和 4 年 4 月 24 日(日)／5 月 22 日(日) ＜参加者＞ 各 5 人

(2) 特別展「土に託されたきらめき—子どもたち×アーティスト／セラミックス最先端」

令和 4 年度は、学校との連携による「つちっこプログラム」を展開して20年目に当たり、これまで15万人の子ども達が“本物”に触れる体験をした。本展では、子ども達の感性豊かな作品や、プロジェクトに関わった陶芸家の作品とともに、4 企業に協力を願い、暮らしを支えるセラミックス製品を展示し、土の幅広い可能性を紹介した。

＜開催期間＞ 令和 4 年 6 月 25 日(土)～9 月 4 日(日) (62日間)

＜観 覧 者＞ 4,608人 (1 日平均74.3人)

【関連事業】

- ・ 特別展オープニングセレモニー
　　＜開催日＞ 令和4年6月25日(日)　　＜参加者＞ 32人
- ・ ギャラリー・トーク
　　＜開催日＞ 令和4年8月6日(日)／9月4日(日)　　＜参加者＞ 5人／20人
- ・ 対話の森「土・信楽・アートと暮らしをめぐる対話」
　　＜開催日＞ 令和4年8月27日(土)　　＜参加者＞ 35人
　　＜会　場＞ 信楽産業展示館ホール
　　＜登壇者＞ 滋賀県立美術館：保坂館長／陶芸の森：松井館長
- ・ 夏休み特別講座「シーサーをつくろう！」
　　＜開催日＞ 令和4年8月7日(日)　　＜参加者＞ 29人

(3) 特別企画「静中動：韓国のスピリットをたどる—開かれた陶のアート」

激変する歴史の中で多文化と交流しながら、独創的な世界観を生み出してきた韓国アート界には、静の中に潜められる動のエネルギー、「静中の動」の精神が垣間見える。本展では、様々な表現・理論へと展開された韓国アート、特に陶を素材にした作品を紹介し、その根底にある精神性と魅力について、歴史的に多くの接点を持つ日本のやきものとの関わりを通じて浮き彫りにした。

- ＜開催期間＞ 令和4年9月17日(土)～12月18日(日) (80日間 ※うち臨時休園1日)
- ＜観　覧　者＞ 7,159人 (1日平均90.6人)

【関連事業】

- ・ 野焼きイベント「未来へのおくりもの—はにわメッセンジャー」
　　＜開催日＞ 制作／令和4年8月6日(土)　野焼き／8月21日(日)
　　＜講　師＞ 本展出品作家・河明求氏　　＜参加者＞ 30人
- ・ 本展監修者 片山まび氏のスペシャル・トーク＋アーティスト・トーク
　　＜開催日＞ 令和4年11月6日(日)　　＜参加者＞ 40人
　　＜題　目＞ 「韓国アートの伝統と現代に迫る！」
- ・ 韓国の食と器：キムチとオンギ「オリジナルのキムチ壺づくり」(再掲)
- ・ 韓国の食と器：キムチとオンギ「キムチを漬けてみよう！」体験講座
　　＜実施日＞ 令和4年11月26日(土)　　＜参加者＞ 29人
- ・ ギャラリー・トーク
　　＜開催日＞ 令和4年9月25日(日)／10月23日(日)／11月20日(日)
　　＜参加者＞ 10人／6人／10人
- ・ 本展後援・協力2館との連携広報
　　後援・協力の駐日韓国文化院・日本民藝館による「朝鮮の工芸」をテーマとした、展覧会の同時期開催や連携広報を通じて、本展の効果的な広報に努めた。

(4) 特別企画展「湯呑茶碗—日本人がこよなく愛したやきもの」

湯呑茶碗は、日本人に最も親しみのある「やきもの」である。個人専用の湯呑茶碗や夫婦茶碗の存在は、日本独特の器文化といえる。特に、明治時代末期から昭和時代前期には、日本各地の名所や名物を表現した多種多彩な湯呑茶碗が焼造されている。本展では、小さな器に当時の名工や作家の技とこだわりを発揮した、当館の「坂口恭逸湯呑コレクション」から、日本人がこよなく愛した湯呑茶碗の魅力を紹介した。

また、コレクションの背景を示す昭和前期の名物商標を編集した、折込帳を展示するとともに、併せて近江茶の歴史や製法を動画で紹介した。

＜開催期間＞令和5年3月11日(土)～6月25日(日) (92日間／令和4年度 18日間)

＜観覧者＞1,024人 (1日平均56.9人)

【関連事業】

・ギャラリートーク

＜開催日＞令和5年3月19日(日) ＜参加者＞20人

・親子向け特別講座／旅の思い出を込めた湯呑茶碗づくり

＜開催日＞令和5年3月18日(土) ＜参加者＞2部制計32人

・近江茶の銘茶を楽しむ「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」(近江茶賞味会サービス)

＜開催日＞令和5年3月25日(土)・26日(日) ＜主催＞滋賀県茶業会議所

・訪ねてみよう！「信楽の窯元－窯元散策路「第16回ぶらり窯元めぐり」事業協力

＜開催日＞令和5年3月11日(土)～6月25日(日)

(5) 陶芸館ギャラリー企画展

ア. 陶芸館・新収蔵の逸品展－ジャパン・スタイル〔戦前編〕

ジャパン・スタイル展関連企画として、昨年度、陶芸館に移管された信楽窯業技術試験場の参考品・試作品から、欧米の美術様式に日本的な感性や美を融和させつつ、独自の意匠表現を追求した戦前の試験場の取組みを紹介した。

＜開催期間＞令和4年4月9日(土)～24日(日) ＜観覧者＞2,041人

イ. アーティスト・イン・レジデンス企画「湊茉莉」展

令和3年度ゲストアーティスト湊茉莉氏のインスタレーション作品を紹介した。

＜開催期間＞令和4年4月29日(金祝)～6月9日(木) ＜観覧者＞8,727人

ウ. 「信楽焼ってどんなやきもの？－古信楽・大壺と近世・小物陶器」

＜開催期間＞令和4年6月25日(土)～7月24日(日) ＜観覧者＞3,180人

エ. アーティスト・イン・レジデンス企画「榎本佳子」展

令和2年度ゲストアーティスト榎本佳子氏のインスタレーション作品を紹介した。

＜開催期間＞令和4年7月30日(土)～8月25日(木) ＜観覧者＞4,189人

オ. 信楽窯業技術試験場移転記念企画展

「アニマルトイ誕生！－現代陶芸の巨匠たちがデザインした干支シリーズ」

信楽では、干支置物のルーツとされる陶彫の第一人者・船津英治、現代陶芸のパイオニア・八木一夫と熊倉順吉が試験場で手掛けた干支、それらを現代にリデザインしたアニマルトイや原型など、関係資料を紹介した。

＜開催期間＞令和4年9月17日(土)～11月6日(日) ＜観覧者＞9,656人

カ. 「Marty Gross 編集『韓国の陶工 作業工程1974』」特別映像放映

＜開催期間＞令和4年11月11日(金)～12月18日(日) ＜観覧者＞5,659人

キ. 陶芸館・新収蔵の逸品展

＜開催期間＞令和5年3月11日(土)～4月23日(日) ＜観覧者＞2,272人

(6) 収蔵品収集・管理事業

県の収蔵品収集方針に基づき質の高い収蔵品を収集するため、収蔵品収集審査会および価格評価委員会の審議を受け、購入作品3点、寄付作品17点の収集に寄与した。

また、信楽窯業技術試験場収蔵資料のうち、美術的価値の高い作品33点の陶芸の森への移管貸付に当たり、同審査会・委員会に諮った。

＜作品他館貸出＞ 計10美術館／23作品

(7) 博物館実習

＜実施期間＞ 令和4年8月23日(火)～26日(金) 4日間

＜実習者＞ 2名(京都外国語大学・佛教大学 各1人)

2. 創作事業(アーティスト・イン・レジデンス事業〔AIR事業〕)

国内外からスタジオ・アーティストの受入れや、ゲスト・アーティストの招へいを通じて、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家、意欲的な作家を受け入れることによって、信楽から世界に向けて陶芸文化の情報を発信し、信楽地域の知名度向上に寄与した。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況も見極めながら、感染防止対策を講じて国内在住のアーティストを中心に受入れを行った。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ 32人(延べ39回)

日本ー26人(33回)、中国ー2人、フランスー2人、イギリスー1人、フィンランドー1人

(2) ゲスト・アーティストの招聘 9組10人(国内7人／国外3人)

①竹内 紘三(兵庫県)

＜滞在期間＞ 令和4年4月1日～5月1日(31日間／前年度から継続)

＜活動概略＞ 鋳込みで中空の四角柱を作り、接着後焼成し、出来上がった作品を一部破損させる技法で、通常では困難な大型の作品に挑戦した。

②湊 茉莉(日本／フランス在住)

＜滞在期間＞ 令和4年4月1日～5月19日(49日間／前年度から継続)

＜活動概略＞ 自身の絵画作品を立体として表現することに取り組んだ。また、泥漿を布に浸して成形する大型作品に挑戦した。

③日野田 崇(京都府)

＜滞在期間＞ 令和4年4月1日～9月30日(183日間／前年度から継続)

＜活動概略＞ 人体をモチーフにした大型作品の成形を行った。

④青野 千穂(日本／オーストリア在住)

＜滞在期間＞ 令和4年4月4日～7月4日(142日間)

＜活動概略＞ 自作の転写紙で生地に下書きをして彩色するとともに、信楽窯業技術試験場にも転写紙制作を依頼し、細かなトカゲ模様を描いた。その他、髑髏やアコーディオンに流体が絡んだ作品を制作した。

⑤檜木野 淑子(大阪市)

＜滞在期間＞ 令和4年9月16日～令和5年3月31日(197日／継続中)

＜活動概略＞ 手びねりでキューブ型の大型作品を制作し、表面に模様を付け、下絵・釉薬での彩色などを行った。

⑥李 承熙(イ・スンヒ／韓国)

＜滞在期間＞ 令和4年11月2日～令和5年1月31日(91日間)

＜活動概略＞ 釉薬の流れを魅せる四角い作品、板の側面を魅せる作品、顔の形をした作品を制作し、信楽の長石粒を模した表現も取り入れた。

⑦金 鉉淑(キム・ヒョンスク／韓国)

＜滞在期間＞ 令和5年1月6日～3月8日(62日間)

＜活動概略＞ 石膏版や型を用いて大皿などの器を成形し、信楽窯業技術試験場制作の転写シートを施し、染付の技法を使い作品に絵付けをした。

⑧ポンパン・ソティプラパー・アー（タイ）

＜滞在期間＞ 令和5年1月29日～3月29日（60日間）

＜活動概略＞ コロナ禍で未完となった作品を仕上げ、初期のイメージを変更して、コロナウイルスの形をイメージした大型作品を制作した。

⑨広瀬 菜々／永谷 一馬（日本／ドイツ在住）

＜滞在期間＞ 令和5年2月24日～3月31日（36日間／継続中）

＜活動概略＞ ドイツの泥漿を日本でも作れないか模索し、日本にしかない日常のものを型取りし焼成する。

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

○滞在ゲスト・アーティスト等によるアーティストトーク

＜実施回数＞ 5回 ＜参加アーティスト＞ 計8人 ＜見学者＞ 計85人

(4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー等を基点とした情報発信・活性化

アーティスト・イン・レジデンス事業のインスタグラムアカウントを開設し、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝えることで、滞在アーティストの活動内容のアーカイブ化と、滞在制作を検討するアーティストへの情報提供に努めた。また、アーティストの成果展示を陶芸館ギャラリーで行った。

○アーティスト・イン・レジデンス企画「湊茉莉」展(再掲)／「榎本佳子」展(再掲)

(5) 国内外の機関との連携

ア. 海外機関との連携

○文化庁補助事業を活用した、海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラムにより、海外からゲスト・アーティスト2名を受け入れた。

・高 辰翔（カオ・チェンジャン／台湾国立台南芸術大学）

＜滞在期間＞ 令和4年11月12日～令和5年3月3日（112日間）

・サン・キム（韓国陶磁財団）

＜滞在期間＞ 令和5年1月27日～令和5年3月7日（40日間）

○フィンランドセンターと連携し、スタジオ・アーティスト1名を受け入れた。

・エミール・リティッカ（フィンランド）

＜滞在期間＞ 令和4年10月16日～11月30日（46日間）

イ. 国内機関との連携

○多治見市陶磁器意匠研究所と協定を結び、先方職員1名を研修生として受け入れるとともに、レジデンスアーティストの視点から批評を頂いた。

○文化庁補助事業として、国内レジデンス機関とレジデンス運営の諸課題についてレジデンス研究会を開催した。

＜開催日＞ 令和5年2月24日(金)・25日(土) ＜会場＞ 陶芸の森管理棟

＜参加者＞ 4機関・延31人 ＜見学者＞ 3人

3. 子どもやきもの交流事業／「つつっこプログラム」

陶芸作家や地元産業、福祉、教育の関係者等で構成する「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」とともに、やきものに関する鑑賞教育や作陶体験など、学校との連携プログラムを展開し、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や、次世代の陶芸の森ファン獲得に努めるとともに、子ども達や障がいがある人の造形活動に対して支援した。

(1) 本物と出合うー総合的学習プログラム事業

- ・出張授業 118件 6,380人
- ・ねんどと遊ぶ 4件 168人（親子陶芸体験）
- ・研修会 2件 147人（滋賀県中学校校長会全員研修会 他1）
- 計 124件 6,695人

○世界にひとつの宝物づくり事業 《実行委員会》

- ・来園制作 55件 2,291人
- ・来園見学 28件 2,129人
- ・出張事業 8件 280人
- ・特別講座 4件 112人
- ・研修会等 8件 179人
- 計 103件 4,991人

第3 産業の振興に関する事業

1. 信楽窯業技術試験場との連携事業

(1) 試験場移転に併せた取組み

- ア. 試験場移転記念展「ジャパン・スタイル」開催（再掲）
- イ. 試験場開所記念ロビー展「信楽窯業技術試験場のあゆみ [1901-2022]」への協力
試験場が開所を記念し、前身の模範工場時代からのあゆみを試作品や参考作品、関係資料などを通して紹介する、ロビー展に企画協力した。
＜開催期間＞ 令和4年9月18日(日)～約1年間
- ウ. 陶芸館ギャラリー移転記念企画展開催（再掲）
「アニマルトイ誕生！ー現代陶芸の巨匠たちがデザインした干支シリーズ」
- エ. シガラキ魅力発見勉強会への協力（ジャパン・スタイル展解説）
＜主催＞ 試験場 ＜参加者＞ 信楽陶器工業協同組合青年部20人他
- オ. 試験場共同事業「薪窯発信プロジェクト」
＜開催日＞ 令和5年2月21日(火)・22日(水) ＜参加者＞ 30人(焼成24人)
＜搬入作品数＞ 150点

(2) 滞在アーティスト等による試験場研修生に対する講座等の開催

- ・町内窯元見学（試験場主催）
＜開催日＞ 令和4年6月10日 ＜参加者＞ 16人（陶芸の森より6人参加）
- ・学芸員による研修生への展覧会解説
「ジャパン・スタイル」展 ＜実施日＞ 令和4年4月22日 ＜参加者＞ 15人
「静中動」展 ＜実施日＞ 令和4年10月20日 ＜参加者＞ 8人

(3) 試験場技術協力による陶芸館3Dデジタルアーカイブの更新（再掲）

2. 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携し、デザイン科生徒の実習や施設見学等を受け入れ、地域での人材育成に努めた。

- ア. 陶製椅子絵付け実習
＜実施日＞ 令和4年11月11日 ＜参加者＞ 3年生 15人
- イ. 野焼き体験実習
＜実施日＞ 令和4年11月24日 ＜参加者＞ 2年生 30人

ウ. 陶芸の森施設見学

＜実施日＞ 令和4年11月15日 ＜参加者＞ 1年生 48人

＜実施日＞ 令和4年12月15日 ＜参加者＞ 3年生 17人

エ. 陶芸作家によるやきもの制作指導

＜実施日＞ 令和4年10月6日 ＜参加者＞ 2年生 25人

オ. 登り窯体験実習

＜実施日＞ 令和4年10月20日 ＜参加者＞ 2年生 31人

3. 若手陶器産業後継者等への支援事業

若手陶芸作家の発掘や陶器産業後継者の育成支援の一環として、陶芸館ミュージアムショップの「がちゃがちゃ(カプセルトイ)」で販売するモデル作品を広く公募した。

なお、デザインの優れたモデルについては、賞を授与するとともに、陶芸の森が一定数を購入して「がちゃがちゃ」で販売し、陶器産業後継者等への支援の一助した。

＜募集期間＞ 令和4年8月30日～12月25日 ＜応募件数＞ 36件

＜入賞作品＞ 金賞「むに〜っとあにまる。」(滋賀県)

銀賞「困るぶたさん」(愛知県)

銅賞「ささえる滋賀名物」(石川県)

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

○「ジャパン・スタイル」展(会期 60日間)

売上合計 1,020,734円(17,012円/日)

○「土に託されたきらめき」展(会期 62日間)

売上合計 874,583円(14,106円/日)

＜関連企画＞

- ・「信楽高原 山田牧場協賛 POP UP SHOP 土日限定で登場！」

地元企業連携として、信楽で牧場を経営し、自社製生乳による乳製品を製造販売する山田牧場の商品を、土曜日限定により陶芸館前で販売した。

○「静中動」展(会期 80日間 ※うち臨時休園1日)

売上合計 1,228,660円(15,552円/日)

- ・本展出品作家の作品や書籍を始め、本展開催協力の日本民藝館機関誌『民藝』に特集された韓国工芸関連の書籍や、韓国の美しい手工芸品を販売した。

○「湯呑茶碗」展(令和4年度会期 18日間)

売上合計 302,466円(16,804円/日)

＜関連企画＞

- ・近江の銘茶を楽しむ「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」

滋賀県茶業会議所と連携し、近江茶の賞味会サービスを実施するとともに、ショップで近江銘茶「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」や、滋賀県産の丹波黒豆を使用した豆菓子、また「ちょっとレトロが新しい」をテーマに、レトロかわいい雑貨を販売した。